

## ごあいさつ

この度、「平成26年度 宮崎文化振興協会研究報告書」を作成しました。

本報告書は、本協会の職員が日常の業務を遂行する中で、自ら課題を見つけ、問題点を分析し、その対応策・改善策を模索するという一年間の「研究事業」を報告書としてまとめたものです。職員の職能成長を期して3年前から取り組んでいる事業ですが、本年度は「経営」、「歴史・文化」、「自然科学」、「施設管理」、「催事等実施報告」の各部門から18件の報告がありました。

日々の業務を振り返り、まとめるという作業に、時間的にも厳しい状況の中で取り組んだ職員の努力に敬意を表したいと思います。

研究事業では、業務上の問題点を意識的に見直し、問題点が検討され対応策や改善点が提案されています。研究成果の共有化が図られることを期待して、報告書としてまとめたところです。

本協会では、学習・文化施設を探求的な学習活動の場として位置づけ博学連携を推進し、文化の伝承・伝播という視点から地域回想法を中心とした博福連携を進めています。また、「心豊かな活力あるまちづくり」を目的とした地域ミュージアム化構想に取り組んでいます。

これらの取組の基盤になるのは、やはり「人」という力だと思います。職員一人一人が自分の持てる力を最大限に活かす努力を、そしてそれぞれの施設では調和と同時に全体のレベルアップを目指して全員参加型の取組を今後とも期待します。

臨済大師の言葉に「随所に主となれば立処皆真なり」というのがあります。その場で主体的に取り組むこと（随所に主）ができれば、その時、その場が真に生きがいのある人生（立処皆真）となるという意味の言葉です。

研究事業を通して、主体性を確立する苦しさや楽しさを体験した職員の今後のさらなる精進のためにも本報告書をご一読いただき研究事業に対するご意見をいただければ幸いです。

平成27年3月吉日

公益財団法人宮崎文化振興協会  
理事長 田原健二

# 目次

## 経営部門

---

《宮崎科学技術館》	
組織的に機能する「企画広報戦略会議」の在り方について	・・・・・・・・ 1
～職員のアイデアを生かす企画立案・効果的な広報活動・PDCAサイクルの確立を通して～	
宮崎科学技術館の展示物の有効利用について	・・・・・・・・ 7
《大淀川学習館》	
小規模博物館等施設が抱える経営課題への対応	・・・・・・・・ 12
視覚に障がいがある方への大淀川学習館としての対応力	・・・・・・・・ 18
(兼 催事等実施報告部門)	

## 歴史・文化部門

---

《宮崎市佐土原歴史資料館》	
関ヶ原の戦いや佐土原藩お家騒動等の原因分析に係るリスクマネジメント	・・・・・・・・ 24

## 自然科学部門

---

《宮崎科学技術館》	
星空教室等における雨天時の活動充実に向けて	・・・・・・・・ 30
手作りプラネタリウムの作製	・・・・・・・・ 36
～“星に手が届く”プラネタリウム～	
簡易プラネタリウムの製作について	・・・・・・・・ 42
《大淀川学習館》	
生命を取り扱う博物館としての大淀川学習館がもつ機能の拡充	・・・・・・・・ 47

ダンボールを活用した野鳥巣箱の実用性についての考察	・・・・・・・・ 53
嫌われ生き物の展示とその意義	・・・・・・・・ 59
自然科学施設における口頭解説の導入と実践について	・・・・・・・・ 65

## 施設管理部門

---

《みやざき歴史文化館》	
みやざき歴史文化館における資料燻蒸について	・・・・・・・・ 71
《宮崎市民プラザ》	
ホワイエの有効活用について	・・・・・・・・ 77
予約受付システムの効率化について	・・・・・・・・ 83
利用者にやさしい施設づくり	・・・・・・・・ 88
～親子・高齢者・障がい者にとって～	

## 催事等実施報告部門

---

《宮崎科学技術館》	
続・南極に関するイベントの実施報告	・・・・・・・・ 93
企画展「宮崎ゆかりの科学者たち」について	・・・・・・・・ 99